教育かわら版

こんにちは教育委員会です

ふたたび

No.１９０
２０２３（令和５）年８月１５日発行
今金町教育委員会の会
文責：教育長　中山秀悦



連日の猛暑もちょっと小休止。お盆です。

町主催の『２０歳を祝う会』もあるなど帰省シーズン真っ盛り。街中に普段より人がいるなあ、いいもんだなあと実感します。

台風７号対応の臨時三役課長会議も招集され、大きな被害がないことを願うばかりです。

数年ぶりの『戦没者追悼式』にも参列して参りました。ハワイでのハリケーンがらみの山火事被害の映像が脳裏に浮かびます。

自然災害でさえ、あのような状況になってしまうというのに、ウクライナをはじめとする戦争でわざわざ大丈夫な建物や自然を破壊していくことに、犠牲者を出していくことに、そして自分にはそれを止める術がないことに悲しみと無力さも感じます。

昭和３６年生まれの私はいわゆる戦後の子ではありません。でも、子どもの頃は防空壕跡でかくれんぼとか鬼ごっこをして遊んでいました。私の育った海軍航空隊の基地があった町には小学生の頃まで、街中にかなりの数のコンクリート防空壕跡が残っていたのです。そこで遊ぶことに何のためらいもなく過ごしていました。平和であることの喜び、生きている喜び。昭和だったのですね。

子どもの頃は、軟球でソフトボールの試合。その日、空き地に集まった子でリーダー選びから。ソフトボールを持っている子はほとんどいなくて、でも上から投げると打てない子も多く文句が出る。なによりも面なしのキャッチャーがこわくてやりたい子が少なかったから。キャッチャーミットを持っている子はいたけれど、面なんて買ってもらえなかった。まあ軟球の方が野球っぽいですし･･･。

その後はだんだんと空き地がなくなっていったなあ。今、実家に戻ると外で遊んでいたなんて信じられないほどです。家も、交通量も。少年野球に入らないと野球もしなくなっていったのもその後のことでしたか。

なんとなくこんなことを考えてしまうのは、やっぱりお盆だからですかね。大事にしなきゃ。家族も友人も。



穏やかに　落ち着いて

机に挟んである写真を見て、「お孫さんですか」って言われることがあります。

「いえ、まだいないんで」

娘と息子の小さい時の写真だ。

長かった単身赴任中の癒やしとして。そしてまだ、学校現場にいた頃、もし思わずカッとくるときがあっても、これがこの子たちだったら、とか、うちの子もこんな時あったかもな、と思い直せるように、という意味もあってずっと挟んでいました。今も。

アンガーマネジメント。

まあ、あんまりカッとくることもないんですけどね･･･。